

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新潟大学教育学部附属長岡中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒940-8530
新潟県長岡市学校町1丁目1番1号
E-mail kobai@nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp
Website http://www.nagaoka.ed.jp/
幼児児童生徒数 男子174名 女子181名 合計355名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、目指す生徒像を「新たな世界を創り出す生徒」とし、多様な知識や情報を結び付け、より良い社会を目指して納得解・最適解を求め続ける力を育むことを重視している。そのために、国連の持続可能な開発目標のうち、「住み続けられるまちづくり」と「平和と公正をすべての人に」を最重要課題とし、それらに関する学習を教育課程の中に位置付けている。

今年度は特に、文部科学省の研究開発指定を受けて設置した新領域「いのち」の中で、「くらし」「自然」「平和」をテーマとし、①地域の水害や震災、雪害に関する防災学習②地元長岡市と日本で唯一地上戦が行われた沖縄を題材とした戦争にかかわる学習③地元長岡市の戦後復興にかかわる学習を行った。単元の学習は「知る」「考える」「行動する」の3つのプロセスに分けて進めた。

① 地域の水害や震災、雪害に関する防災学習に係わる活動

(主に「くらし」「自然」に関わるテーマ)

第1学年では、防災学習を行うことを通して災害に強いまちづくりについて考えることをねらった。災害について書籍やウェブサイトを使い、被害やメカニズムについて調べたり、地域の専門の方を招いて講話を聞いたりした。

そして、災害に強いまちづくりはどうあるべきか、また災害が起きたときに自分たちに何ができるかなど意見交換を行い、具体的な方策を考えた。その方策を地域の専門の方の前で発表し、学習内容の価値付けをしてもらった。生徒はより良いまちづくりに向けて防災の視点から見直すことができた。
(別紙資料参照)

② 地元長岡市と日本で唯一地上戦が行われた沖縄を題材とした戦争にかかわる学習（主に「平和」に関わるテーマ）

第2学年では、長岡と沖縄で起こった戦争について追究することを通して、平和の大切さや平和を持続させていくために自分たちができることについて考えさせることをねらった。

ア 「平和」について

KJ 法的分類により、それぞれが現在考えている平和についてのキーワードを出し合い、価値観を共有した。しかし、同じ年代の同じ国の集まりだと、平和について狭い見解しかもてないということに気付き、大学の留学生と「平和」について討論することになった。育った国や環境により平和への想いは同じでも、平和に向かう手段は違うということに気付いていった。

イ 「戦争」について

アジア・太平洋戦争について、地元長岡市や沖縄の当時の人の暮らしや被害などについて追究した。また、実際に修学旅行で沖縄を訪問し、「戦争のもつ非人間性・残虐性」「戦争の原理」「戦争を阻む平和を守る力を養う」という視点で、沖縄の大学生と交流を行った。平和を持続させていくことが、自分たちに課せられた使命であることを多くの生徒が実感した。

③ 長岡の戦後復興に係わる活動（主に「平和」「暮らし」に関わるテーマ）

第3学年では、地元長岡市の復興のシンボルである長岡祭りについて追究することを通して、平和の大切さやそれに立脚したまちづくりの重要性に気付くことをねらった。これまでの学習を通して、平和の大切さを知った生徒たちは、それを守り続けるためのシンボルとして長岡祭りがあり、そこに具体的にどのように関わっていけるのかを考え、意見を交流させた。地元の商工会議所や企業の人たちとも交流しながら、長岡祭りを通して平和の大切さを伝えるために行動をおこした。(別紙資料参照)



① 地域の専門の方に自分たちの考えを提案する生徒



②ア 留学生と「平和」についてディスカッションする生徒



②イ 沖縄の大学生とディスカッションする生徒



③ 長岡祭りで平和の大切さを訴える生徒

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

長岡市市政だより 中越震災アーカイブ (ウェブサイト) ながおか防災ホームページ (ウェブサイト) 中越メモリアル回廊 (ウェブサイト) 長岡戦災資料館 (ウェブサイト)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

将来の予測が困難な社会において、より良い社会の構築を目指していくために必要な資質・能力を設定している。そういった資質・能力を育むために、新領域「いのち」（主に総合的な学習の時間を活用）をたちあげ、以下の2点を工夫した。

1点目・・・新領域「いのち」における学習内容を「くらし」「平和」「自然」の3つに設定したこと。これらに関わる様々な事象は現代社会における重要な課題を含むものであり、価値葛藤を生みやすいテーマでもある。そのため、事象を多面的・総合的に捉えたり、批判的に考えたりしながら納得解・最適解を自ら見いだす必要があるものとする。

2点目・・・単元を「知る」「考える」「行動する」と構成したこと。このような活動を繰り返すことにより、先を見通し行動したり、仲間と協働したり、問題を自分事としてとらえ進んで活動する姿が期待される。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

新領域「いのち」において、3年間を通して「自然」「くらし」「平和」の3つのテーマから様々な課題を解決している活動に取り組んでいる。また、地域の素材を生かすために、地域の専門の方とのネットワークを強固にし、職員や生徒の入れ替わりがあっても、継続して学習できる環境をつくっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

保護者に『「いのち」の学習を通して地域（長岡）の課題に目を向けるようになっていく。』という項目で外部評価を6月と11月に行った。6月では肯定的評価が85%、11月では90%となった。「唯一地上戦があった沖縄が「いのち」のテーマになっていることはとても必要だと思います。言葉や文字だけでは説明しきれないものを感じてくれたらと思います。」など肯定的なコメントをいくつもいただいた。今後、資質・能力の面から生徒の自己評価を行っていく予定である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

自分たちだけで完結する提案や活動ではなく、積極的に専門家の方やそのような活動を行っている団体に発信を行い、自分たちの提案や活動を価値付けしてもらっている。そういった事を地元の新聞で取り上げてもらい、更に広く地域に発信を行った(別紙補足資料参照)。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域の素材を生かしているため、「長岡地域振興局地域整備部」「長岡青年会議所」「防災科学技術研究所」「フェニックス財団」「戦災資料館」「花火ミュージアム」「アオーレシアター」「大学の留学生」などと積極的に交流を行っている。また、地域の企業の「飲食店(フレンド)」とも協働して活動を行った。

さらに、幅広い視野を育むために「沖縄観光コンベンションビューロー」といった他の地域の方との交流も行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

同じ敷地内でユネスコスクールである新潟大学教育学部附属長岡小学校と附属幼稚園と合同で、運動会を行っている。また、幼・小・中で新領域「いのち」に関わる合同の研修会を行い、幼・小・中で一貫してこれからの社会に必要な資質・能力を育成することを目指している。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

「中越地震から2ヶ月後に生まれました。本当に身近な場所から死者が出ており、「人ごとではない」と一生懸命課題に取り組む姿が見られました。私がどこに避難していたのか？など、いろいろ聞いてくる姿も見られました。命と安全の確保の大事さ、大切さをちょっとでも感じてくれたのではないかと思います。」と保護者からコメントを多数いただいたりするなど、生徒が自分事として、課題を捉え、粘り強く取り組む姿が見られている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度から活動を一新したこともあり、原則として今年度の活動を踏襲しながら、さらにより活動を目指していく。具体的には下に示したとおりである。それとともに、生徒の変容が分かるような評価を考えていく。
1年生・・・「くらし・自然」の面から地域の防災の在り方について考えていく。地域の方々とも積極的に交流し、考えを深め、さらに発信の方法も工夫していく。
2年生・・・「平和・くらし」の面から、長岡で起きた戦争と人々の生き方について考えていく。そして、沖縄での修学旅行を通して、沖縄で起きた戦争について学び、恒久的な平和への想いを高めていく。
3年生・・・「平和・くらし・自然」の面から、戦後復興を遂げた長岡と人々の生き方について長岡祭りを通して考えていく。後生に戦争を二度と起こさないという想いを伝えるために行動を起こす力を育てていく。